



左から『職訓蒙鏡草』巻三(国立国会図書館)、「井原西鶴像」(生國魂神社)、「近松門左衛門」(民友社『近世日本国民史』)、「曾根崎心中お初・徳兵衛像」(露天神社)

おおさかぶんがくさんぽ

展示

大阪文学散歩 - 元禄時代を中心に -

元禄時代、大坂は井原西鶴・近松門左衛門が活躍し、浄瑠璃、浮世草子など町人文化が最盛期を迎えました。今回の展示では、「大阪文学散歩」と題して、その足跡を各地に残る文学碑などでたどります(パネル展示)。また、同時開催「歴史街道文学散歩」と題し、井原西鶴の「諸国はなし」の中から、歴史街道エリアにまつわる話を選んで、その舞台をご紹介します。展示と関連講演会をとおして大阪の魅力を再発見します。

展示期間 平成28年7月5日(火曜)から7月31日(日曜)まで
 展示場所 大阪府立中央図書館1階展示コーナー
 休館日 7月11日(月曜), 19日(火曜), 25日(月曜)
 開館時間 9時から19時まで(土日祝祭日は17時まで)

関連講演会

7月9日(土曜日) 14時から15時30分

「人気作家西鶴への近松の挑戦」



7月16日(土曜日) 14時から15時30分

「近松の描いた大坂の人の心」

講師 後藤博子 帝塚山大学文学部准教授

会場 大阪府立中央図書館2階大会議室

定員 70名(先着順, 申込不要, 受講無料)

講演予定概要

7月9日（土曜）14時から15時30分

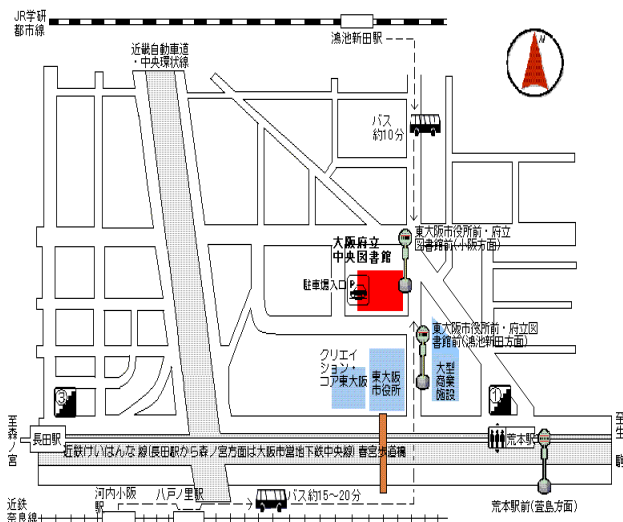
「人気作家西鶴への近松の挑戦」

貞享二年（1685）の大坂道頓堀で、日本文学史上屈指の名勝負が行われました。井原西鶴（43歳）と近松門左衛門（33歳）による人形浄瑠璃の競作です。義太夫が竹本座を旗揚げしたばかりのところへ、京都の人気太夫加賀掾が大坂に乗り込んで、競演を繰り広げました。このとき、加賀掾には西鶴が、義太夫には近松が新作を書きました。矢数俳諧や浮世草子『好色一代男』によって人気を集めていた西鶴に対する、新進の近松の挑戦はどのようなものだったのでしょうか。当時の観客の視点で楽しんでみたいと思います。

7月16日（土曜）14時から15時30分

「近松の描いた大坂の人の心」

元禄十六年（1703）、竹本座で近松の初めての世話浄瑠璃『曾根崎心中』が上演され、大成功をおさめました。これが契機となって、宝永二年（1705）に近松（53歳）は京都から大坂へ移り住みます。以降、享保九年（1724）72歳で亡くなるまで、浄瑠璃作者として活躍し続けました。とりわけ大坂を舞台に描き出された世話浄瑠璃は、現代でも大坂のまちと人の心を伝える名作として共感を集めています。『冥途の飛脚』や『心中天網島』などの舞台をたどりながら、近松の描いた大坂の人の心を探っていきます。



大阪府立中央図書館

生涯学習事業 担当

〒577-0011

東大阪市荒本北1-2-1

TEL06(6745)0170

FAX06(6745)0262

近鉄けいはんな線（地下鉄中央線乗り入れ）
荒本駅下車（1番出口）北西へ400M
有料地下駐車場有（平日は100円/60分、
最大料金500円、土日祝祭日は150円/60分、
最大料金600円）

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/>